

令和3年度 実施事業の概要

教育事業名: 防災・減災教育 in MYOKO

期間 令和3年8月19日(木)～20日(金)

対象及び参加人数: 学校教員

目的: ・地域で起こり得る災害や過去の災害への知識をもち安全な行動をとる判断ができる指導者の育成
 ・災害時の危険を認識し、日頃から状況に応じて自ら考え安全な行動ができる指導者の育成
 ・自然の家を活用した防災・減災プログラムの体験

事業概要:

上記目的のため、事業を実施した。10名(小学校教員9名、中学校教員1名)が参加した。

各講習及び講師は、以下のとおりである。

【妙高火山について】: 鹿島 真由美 (国立妙高青少年自然の家 職員)

【露頭観察・火山灰の観察・噴火実験】: 鹿島 真由美 (国立妙高青少年自然の家 職員)

【学校避難所開設について】: 保坂 尚忠 氏 (妙高市総務課 危機管理室 防災係)

【災害食調理】: 友松 由実、鹿島 真由美、池田 果穂 (国立妙高青少年自然の家 職員)

【地滑り、雪崩について】: 磯部 茂 氏 (上越地域振興局 妙高砂防事務所)

成果:

当施設で行っている「火山学習プログラム」を先生方が実際に体験した。まずは妙高山の成り立ちや火砕流災害等の講義を受け、その後は敷地内で火砕流堆積物の露頭観察を行ったり、顕微鏡で鉱物の観察をしたりした。先生方は火山災害や火山活動によってできた土地の様子について理解を深め、指導者として露頭観察時の安全指導等についても学んだ。次に、妙高市防災係の職員を講師に避難所開設に関する講義と段ボールベッドの体験を行った。2日目は、ポリ袋を使った災害食調理や、上越市にある「地すべり資料館」に出かけ、妙高砂防事務所の職員から地滑りや雪崩についての講義を受けた。

参加者からは火山学習の講義や演習から「ホンモノ」に触れながら学ぶことの有効性や、専門家からの講義に理解を深めることができたことと高評価をいただいた。また、事業後の10月に勤務校の児童を引率し、当施設で火山学習を指導する先生もいて、研修支援へのつながりも得られた。



課題:

学校教員を対象にしたが、他の研修と重なったため、参加者が少なかった。学校関係の研修や会議等の日程について情報収集する必要がある。

また、参加した校長先生から職員研修として行ってほしいという声もあったので、学校のニーズを探りながら職員研修や児童生徒への学習支援等、研修支援につなげていく。